

長柄町
セカンドキャリア支援プログラム

平成 29 年 2 月

目 次

I.	生涯活躍のまち（日本版CCRC）とは	1
1.	「生涯活躍のまち」制度の概要	1
(1)	生涯活躍のまちにおける基本理念	1
2.	セカンドキャリア支援プログラムの概要	2
(1)	7つの基本コンセプト	2
(2)	「生涯活躍のまち」構想の具体像	3
(3)	セカンドキャリア支援プログラムの検討手法	4
II.	セカンドキャリアに係る長柄町の特性	5
1.	地域特性と地域資源	5
2.	強みと課題の整理	7
III.	基本方針	8
IV.	基本的な方向性	8
V.	具体的なプログラム案の検討	11
VI.	基礎調査結果概要	15
1.	事業者アンケート調査	15
(1)	調査概要	15
(2)	調査結果（概要）	15
2.	Webアンケート調査（都市住民）	19
(1)	調査概要	19
(2)	調査結果（概要）	19
3.	グループディスカッション	22
(1)	調査概要	22
(2)	ディスカッション内容（要旨）	22

I. 生涯活躍のまち（日本版CCRC）とは

1. 「生涯活躍のまち」制度の概要

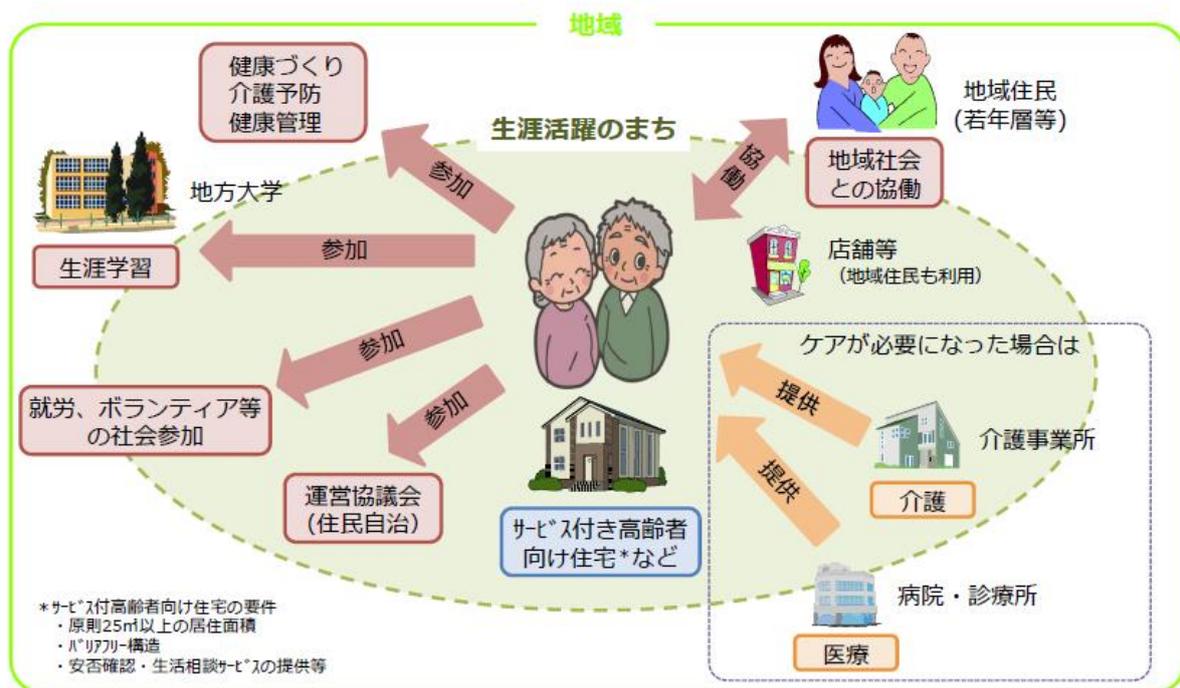
(1) 生涯活躍のまちにおける基本理念

「生涯活躍のまち（日本版CCRC¹）」構想は、「東京圏をはじめとする地域の中高齢者が、希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、多世代の地域住民と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり」を目指すものであり、構想の主な意義としては、①中高齢者の希望の実現、②地方へのひとの流れの推進、③東京圏の高齢化問題への対応、の3つの点があげられます。

「生涯活躍のまち」構想は、単に高齢者のための福祉施設を整備するという発想ではなく、中高齢者が主体となって、地域社会に溶け込みながら健康でアクティブな生活を送ることができるコミュニティづくり・まちづくりを行うものとなります。

図表 1 「生涯活躍のまち」構想における高齢者の生活のイメージ

- ①健康でアクティブな生活の実現と継続的ケアの提供、②自立した生活ができる居住環境の提供、③入居者の参画の下、透明性が高く安定した事業運営によるコミュニティの形成を一体的に実現。



※事業の透明性・安定性の確保の方策：入居者の参画、情報公開、事業の継続性確保等

(出所)「生涯活躍のまち」構想に関する手引き（第3版）

¹ CCRC：Continuing Care Retirement Community の略。都会の高齢者が地方に移り住み健康状態に応じた継続的なケア環境の下で自立した社会生活を送ることができるような地域共同体のこと。

2. セカンドキャリア支援プログラムの概要

(1) 7つの基本コンセプト

基本理念を踏まえ、「生涯活躍のまち」構想は、以下の7つの点を基本コンセプトとしています（図表2参照）。

図表 2 「生涯活躍のまち」構想の7つの基本コンセプト

1. 東京圏をはじめ地域の高齢者の希望に応じた地方や「まちなか」への移住の支援

- 移住希望者に対してきめ細やかな支援を行う。東京圏等から地方へといった広域的な移動を伴う移住のみならず、「まちなか」への転居など地域内での移動を伴う取組も想定

2. 「健康でアクティブな生活」の実現

- 健康な段階からの入居を基本とし、目標志向型の「生涯活躍プラン」に基づき、健康づくりや就労、生涯学習など社会活動に主体的に参加することを目指す。

3. 地域社会（他世代）との協働

- 入居者が地域社会に積極的に溶け込み、子どもや若者など他世代との協働や地域貢献ができる環境を実現する。ソフト面全般にわたる「運営推進機能」の整備や、地域包括ケア関連施設との連携も重要

4. 「継続的なケア」の確保

- 医療介護が必要となった時に、人生の最終段階まで尊厳ある生活が送れる「継続的なケア」の体制を確保。

5. IT活用などによる効率的なサービス提供

- 医療介護人材の不足に対応しITや多様な人材の活用、高齢者などの積極的な参加により、効率的なサービス提供を行う。

6. 居住者の参画・情報公開等による透明性の高い事業運営

- 入居者自身がコミュニティの運営に参画するという視点を重視。

7. 構想の実現に向けた多様な支援

- 情報支援、人的支援、政策支援により構想の具体化を後押し。

(2) 「生涯活躍のまち」構想の具体像

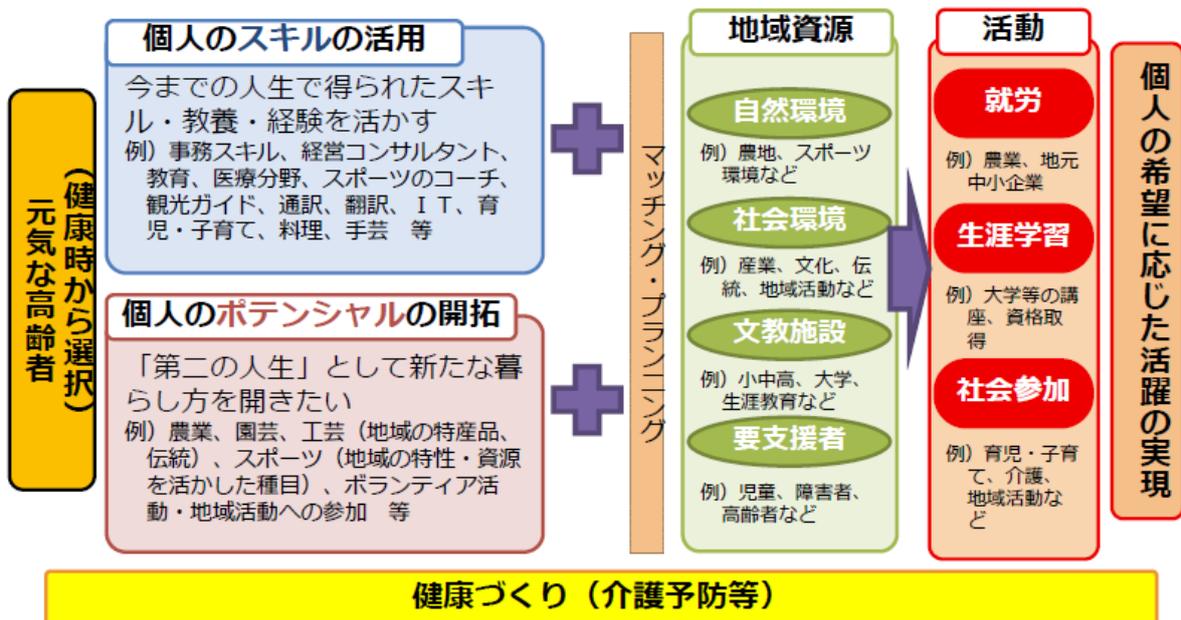
国の手引きでは、「生涯活躍のまち」の要件を、「共通必須項目」と「選択項目」に区分して示しています。「共通必須項目」は、入居者の安心・安全の確保などの観点から、地域の事情に関わりなく遵守しなければならない項目であり、「選択項目」は、地域の特性や強み、希望する地域づくりに応じた項目となっています。

図表 3 「生涯活躍のまち」構想の具体像

	◎入居者の安心・安全を確保する = 「共通必須項目」	◎地域の特性や強みを活かす = 「選択項目」
入居者	I.入居者 ① 入居希望の意思確認 → 構想の基本理念を理解し、入居意思が明確な者としておくことが必要。意思確認のための丁寧なプロセス（事前相談・意見聴取、お試し居住など）を用意 ② 入居者の健康状態 → 健康な段階からの入居が基本。要介護者も排除しない ③ 入居者の年齢 → 早めの住み替えや、入居する地域での活躍を念頭に、50代以上を中心とした幅広い年齢構成とすることが望ましい	I.入居者 ① 入居者の住み替え形態 → 「広域移住型」⇔「近隣転居型」 ② 入居者の所得等 → 一般的な退職者を基本としつつ、富裕層も想定 ③ 入居者の属性 → Uターン・趣味嗜好等の「個人のニーズ」や、地域の求める専門知識・技術等の「地域のニーズ」に着目し、地域の実情に応じて募集。その際、入居者の属性に応じた支援が重要
立地・居住環境	II.立地・居住環境 ① 地域社会（多世代）交流・協働 → 中高年齢者が地域社会に溶け込み、多世代と交流・協働できる環境を整備 ② 自立した生活ができる居住空間 → 共同生活と個人生活のバランスに配慮し、安心して自立した生活が送れる居住環境を提供 ③ 生活全般のコーディネート（運営推進機能） → 「地域交流拠点」を整備し、入居者の生活全般を支えるコーディネーターを配置	II.立地・居住環境 ① どこに立地するか → 「まちなか型」⇔「田園地域型」 ② 地域的広がりをするか → 「タウン型」⇔「エリア型」 ③ 地域資源をどう活用するか → 既存施設や空き家の活用、団地再生など多様なケースが想定される ④ 「地域包括ケア」との連携 → 既存の福祉拠点の活用や介護保険制度の「生活支援コーディネーター」との兼任等により、中高年齢者が社会参加しながらサービスを利用できる地域づくりが可能
サービス提供	III.サービスの提供 ① 移住希望者への支援 → マッチングやお試し居住などの支援 ② 「健康でアクティブな生活」を支えるプログラムの提供 → 個人のスキル活用やポテンシャル開拓の視点を踏まえた「目標指向型」の「生涯活躍プラン」の策定・実施 ③ 「継続的なケア」の提供 → 人生の最終段階まで尊厳ある生活が送れる体制を地域の医療機関等と連携して確保	III.サービスの提供 ① 住み替えサービス → 中高年齢者の現在の持ち家等を若年層などに売ったり買ったりできるような支援 ② 就業・社会参加支援サービス等 → 地域の特性や個人のニーズに応じ、就業・社会参加・生涯学習など多様なプログラム
事業運営	IV.事業運営 ① 入居者の事業への参画 ② 事業運営やケア関係情報の公開	IV.事業運営 ① 多様な事業主体の参画 ② 事業形態に応じた収益モデルの確立・初期費用と維持費用の抑制に努める ③ コミュニティの人口構成維持

図表 4 「生涯活躍のまち」の生活イメージ

- 元気な高齢者が「活躍」するためには、個人のスキルを活用するという視点と、新しい生き方・人生を開いていくという視点が考えられる。
- 「生涯活躍のまち」構想を推進する地域においては、入居者のスキルを活かすような、また、ポテンシャルを開かせるような地域資源とのマッチングと活動プラン作りが重要となる。

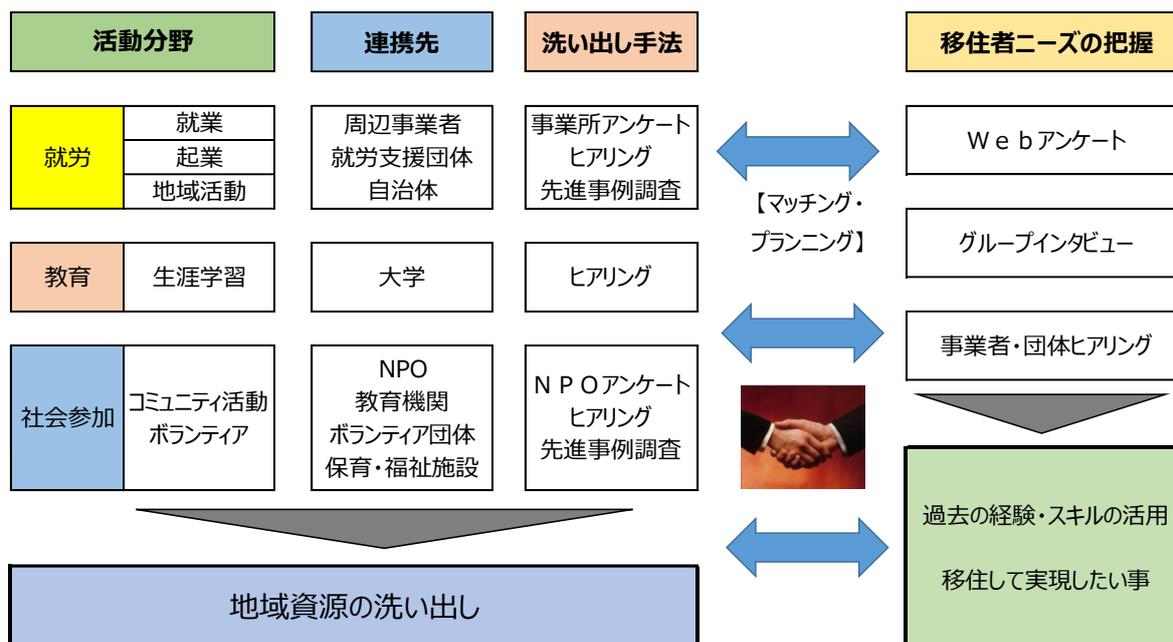


(3) セカンドキャリア支援プログラムの検討手法

本プログラムでは、移住者に健康でアクティブな生活を支援するための「生涯活躍プラン」を「セカンドキャリア支援プログラム」と定義します。

「セカンドキャリア支援プログラム」の検討にあたっては、先進事例、周辺事業者・NPO団体に対するアンケート調査、移住希望者に対するWebアンケート調査などにより、「移住者の希望」と「長柄町が有する地域資源を活用した活動の場」のマッチング・プランニング手法を検討します。

図表 5 セカンドキャリア支援プログラムの検討手法



II. セカンドキャリアに係る長柄町の特性

1. 地域特性と地域資源

長柄町は、房総半島のほぼ中央部に位置し、都心部から 50 km 圏内、県庁所在地である千葉市から 25 km 圏に位置しています。首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の開通により、都心部や県内の人口集積地へのアクセスは改善しましたが、鉄道がなく、バス路線の廃止・縮小が続く本町では交通アクセスの改善が課題となっています。

市街地、商業集積が未整備のため、就労、買い物、娯楽活動の場は市原市、茂原市、千葉市など近隣自治体に依存しています。

生涯活躍のまちの拠点となる「リソル生命の森」や、都市農村交流センター、ゴルフ場などスポーツ関連施設が充実しています。

町内では、多様な主体により、町内一周駅伝、体育大会、文化祭、グリーンツーリズムといったイベントが実施されており地域の情報発信、賑わい創出、住民の交流につながっています。

このように、長柄町は多彩な地域資源を有しており、これらの地域資源を活用した活動が期待できる環境にあります。

地域住民を含めたセカンドキャリアの充実においては、地域資源を活用し、多様な担い手による幅広い活動の場を創出する事が重要となります。

図表 6 地域資源の整理と活用方法の一例

		セカンドキャリアにおける活動の場				
		就労	生涯学習	社会参加 地域活動	趣味・ 娯楽	その他
地域資源 (例)	リソル生命の森	就労の場	お茶の間ゼミ	地域交流拠点	各種アクティビティの提供	クリニックによる健康管理
	千葉大学		カレッジリンクの実施	学生の参加・交流		健康増進プログラムの提供
	周辺事業所	就労の場	資格取得	CSR活動との連携		
	農業用地	新規就農	自然学習の場	援農ボランティア	園芸、体験農園	
	NPO法人	ボランティア人材確保	生涯学習講座の提供	メンバーとして参加		
	首都圏への近接性	就労機会の多さ	近隣大学等での受講	活動機会の多さ	周辺商業施設、文化施設等	二地域居住も可能
	先輩移住者				趣味・娯楽の広がり	情報発信の担い手
	里山イベント			ボランティアとして参加	余暇活動	
	グリーンツーリズム	就農・援農		ボランティアとして参加	余暇活動	都市部への情報発信機会
	社会福祉協議会		ボランティア人材の育成	ボランティアのコーディネート		
	医療機関			高齢者の見守り等での連携		医療サービスの提供
	観光資源 都市農村交流センター			ボランティアの場	余暇活動	都市部への情報発信
	ゴルフ場	就労の場			余暇活動	
	スポーツ施設				余暇活動	
	農業体験				余暇活動	
	加工・自然体験			ボランティア(担い手)	趣味・娯楽の広がり	
	スポーツイベント			ボランティア(担い手)	余暇活動	
	文化イベント			ボランティア(担い手)	余暇活動	
	地域伝統行事			ボランティア(担い手)	余暇活動	
	子ども園			ボランティア(担い手)		
小中学校			ボランティア(担い手)			
生涯大学校 (茂原市)		資格取得	地域活動のきっかけ	余暇活動		

2. 強みと課題の整理

地域資源の整理や、各種アンケート、ヒアリング調査から、長柄町のセカンドキャリアに係る分野の「強み」、「課題」を整理すると以下のとおりです。

移住者の充実したセカンドキャリア支援においては、「強み」を活かすとともに「課題」を克服する視点が必要となります。

図表 7 セカンドキャリアに係る「強み」と「課題」

	強み	課題	調査結果
就労	市原市、茂原市、千葉市など周辺自治体の産業集積	基幹産業である農業の活力低下	移住者のなかで約2割（19.5%）は就労希望があり
		工業、商業などの雇用の場が不足	NPO団体、医療・福祉、製造業などでは高齢者層でも一定の人材需要がある
生涯学習	「リソル生命の森」での生涯学習機会の提供	生涯学習の場への交通アクセス	NPO、生涯大学校など生涯学習に関する既存団体の存在
	千葉大学との連携	生涯学習分野の多様化への対応	移住希望者は大学講義等の受講に一定の興味がある（3割超）
社会参加 地域活動	NPO、社協などの主体が存在する（ボランティアコーディネーター等）	<ul style="list-style-type: none"> 受け手と担い手のマッチング 担い手の育成（スキル不足） 	地域住民との交流、ボランティア活動などに対する移住者ニーズは低い（⇔町民のボランティア参加意欲は高い）
	子ども園での児童との交流機会		
趣味・娯楽	自然環境、農業（グリーン・ツーリズム）、スポーツ分野等は充実している	文化・芸術、旅行、商業などの分野が不足	移住希望者は豊かな自然や健康的な生活に対する興味は高い
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 体育大会、一周駅伝大会などスポーツに関連する行事が盛ん 「リソル生命の森」、「都市農村交流センター」、「ゴルフ場」などスポーツ・レクリエーション施設が充実 	高齢者が参加できる分野が不足	スポーツジムなど健康増進に係る分野の興味は高い
生活関連 サービス	4つの病院・診療所が立地、健診体制が充実している	小規模事業者が多く商業規模が不足しており、近隣市に依存	買い物の利便性、医療施設の充実、交通の便は重要視されている
	市原市、茂原市、千葉市など周辺自治体の商業集積	鉄道がなく、バス路線も廃止・縮小で交通利便性が低下	
情報発信	首都圏に近接しており、都市住民に対する情報発信機会が多い	首都圏住民等に対する効果的な情報発信が出来ていない	首都圏住民の長柄町の認知度は半数以下（49.9%）
その他	CCRC拠点としての「リソル生命の森」	「リソル生命の森」と地域との接点確保（交流機会や公共交通の充実）	移住者希望者には施設だけではなく、地域の魅力発信が必須

III. 基本方針

長柄町生涯活躍のまち構想では、「リソル生命の森」において大学連携型 C R C の事業化を推進していますが、前述のとおり、移住者が健康でアクティブな生活を過ごすためには、「リソル生命の森」内だけではなく、長柄町の地域資源の活用、地域住民や事業者等との交流なども含め、長柄町および周辺自治体を含めた地域全体を活動の場とすることが求められます。

長柄町が有する豊かな自然や環境を活かしたイベント、都心部への近接性、充実したスポーツ関連施設、周辺の商業集積といった地域資源を最大限に活用し、移住者同士のみならず、地域住民と積極的に関わることで移住者が明確な目的を持った生活を送ることが出来るプログラムを検討する必要があります。

IV. 基本的な方向性

長柄町で移住者の健康でアクティブな生活を支援するための「セカンドキャリア支援プログラム」として、以下の観点を検討する必要があります。

方向性 ①

積極的な情報発信と発信手法の多様化

首都圏の移住希望者における長柄町の認知度は、約半数が「知らない（聞いたことがない）」と、本町は極めて低い認知度となっています。

全国各地でアクティブシニアの移住・定住誘致が積極的に展開されているなかで、移住希望者に関心を持ってもらうために町自体の認知度向上は極めて重要となります。

先進自治体では、ホームページや情報誌を通じた町の魅力発信に加え、定期的な首都圏での移住・定住関連イベントの開催、県や周辺自治体との広域連携による情報発信機会の多様化などが進められており、本町においても積極的な情報発信と発信手法の多様化を目指す必要があります。

【方向性に基づいた施策展開例】

- 千葉県との連携によるイベント機会の創出（県事業への積極参加）
- 千葉大学、リゾートソリューションとの連携による発信機会の増加
- 町内イベント実施時の移住者向けブースの常設
- 既存移住者を通じた生活環境の情報発信
- 町民による情報発信（SNS²を活用）

² SNS（ソーシャルネットワークサービス）：インターネット上で社会的つながりを提供するサービス。友人や同僚等と情報を共有する Facebook、写真や短時間の動画を共有する Instagram、会話・通話サービスの LINE などが代表的なサービス例

方向性
②

多様な視点による差別化できる地域資源の洗い出し

移住希望者は、居住地の施設や活動だけではなく、自然、景観、伝統、住民との交流機会といった地域資源全体に魅力を感じ移住先を検討しています。

長柄町は、豊かな自然、充実したスポーツ関連施設など差別化可能な地域資源を有していますが、地域資源の組み合わせや発信方法の工夫、住民が誇りに思う新たな地域資源の洗い出し等により、長柄町を他地域と差別化し、移住希望者が移住・定住したいと思わせる必然性を生み出すことが求められます。

【方向性に基づいた施策展開例】

- 移住者との定期的な懇談機会
- 住民、行政、商工団体、事業者、学生、ボランティアなどが一体となった移住・定住促進組織による地域資源の発掘
移住者、地域活動の担い手、退職者、子どもなど集めたワークショップを開催し、多様な視点による地域資源の発掘、情報発信、移住希望者ギャップの洗い出し、施策の検討や商品造成などを行う。
- 中高年齢層が暮らしやすくなるための施策を自主的に検討し、地域の生活利便性向上を図ることで移住・定住環境の改善を目指す。

方向性
③

実施主体の確立と連携体制

「セカンドキャリア支援プログラム」は、事業主体である運営推進法人が策定し、移住者に提供することになりますが、趣味・志向などの面で社会の多様化が進んでいるため運営推進法人が単独で充実したプログラムを提供する事は困難です。

そのため、既存の活動団体（行政、社会福祉協議会、NPO等）、千葉大学、事業者、町民などが連携し、移住者が希望する目標志向型の活動を多様な担い手が主体的かつ複合的に提供することでプログラム内容が充実します。

また、専門人材の募集などにより、地域活動における中核的な人材を育成する事も必要となります。

【方向性に基づいた施策展開例】

- 生涯活躍のまちに関する勉強会・研究会の開催
- 市内事業者の参画による新規事業の創出
- まちづくりに関する推進協議会や、まちづくり会社の設立
- 専門人材（コーディネーター、広報官、イベントプロデューサー、アスリート）の登用

方向性

④

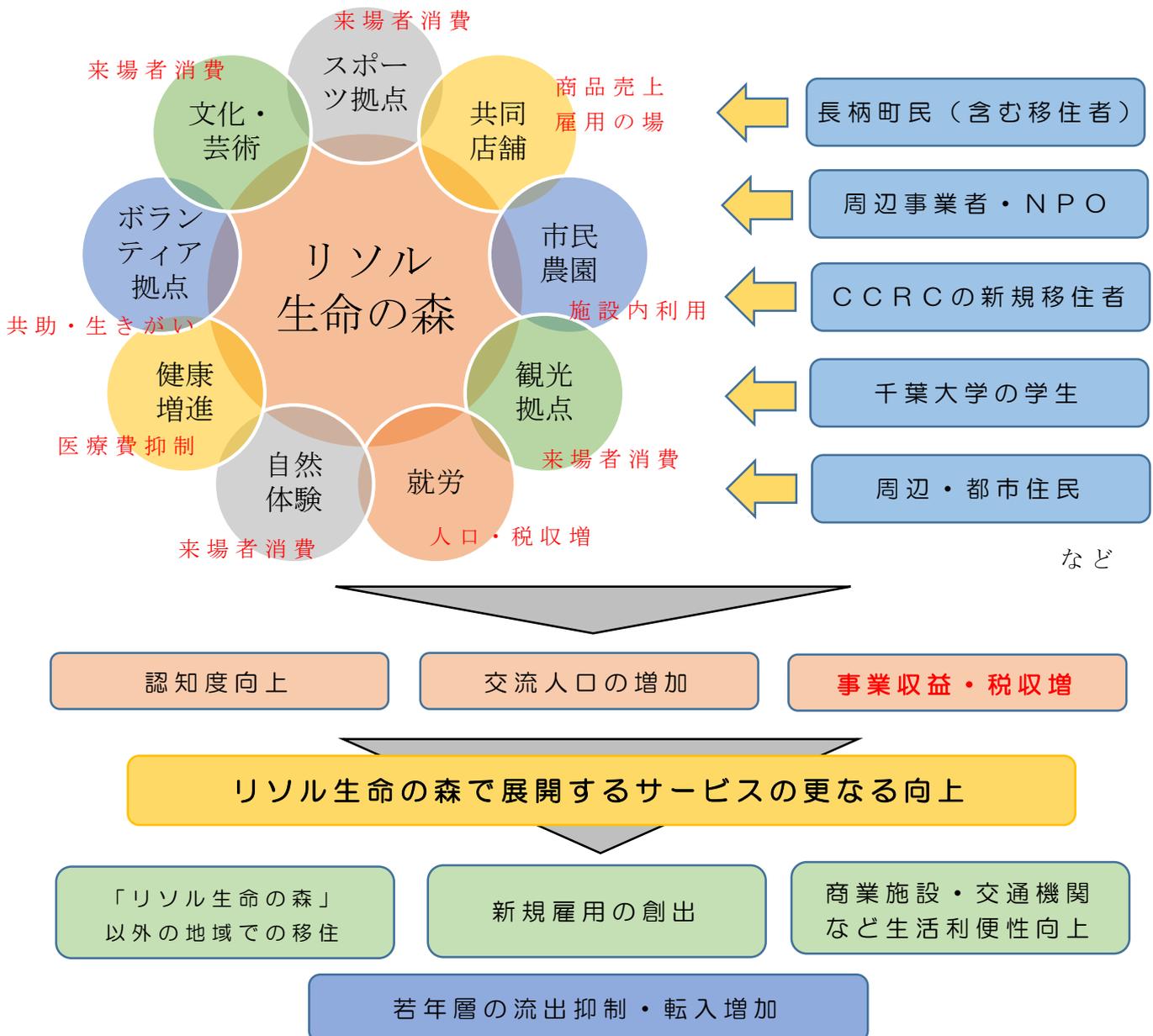
「リソル生命の森」の拠点性を活用した好循環の創出

拠点性を活かした多様な主体による多方面での事業展開は「リソル生命の森」や長柄町の認知度向上、観光・各種イベント参加者などの交流人口増加、長柄町での消費拡大・税収増加の点で相乗効果が期待出来ます。

「リソル生命の森」における活動によってもたらされる事業収益の向上や自治体の税収増加は、既存サービスの拡充や新規サービスの提供を可能とし、新たな移住・定住者の増加や、地域の新規雇用の創出、若年層の流出抑制・転入増加といった好循環につながります。

そのため、「長柄町セカンドキャリア支援プログラム」においては事業収益性の向上や税収増につながる事業を展開するという視点が必要です。

図表 8 「リソル生命の森」における好循環の創出（概念図）



V. 具体的なプログラム案の検討

基本的な方向性を踏まえ、「長柄町セカンドキャリア支援プログラム」の具体的な事業例として以下のものが考えられます。

中高齢者スポーツ大会³の定期開催

概要

高齢者の健康増進、生きがい創出、地域交流などを目的として、全国各地で高齢者スポーツ大会が開催されている。「リソル生命の森」を中心とした充実したスポーツ拠点と長年続くスポーツイベント開催実績を活かして、中高年齢者を対象としたスポーツ大会を定期的に開催し、将来的には全国・世界レベルの中高齢者スポーツ大会の誘致を目指す。

図表 9 高齢者スポーツ大会の定期開催の実施手法案

活用可能な地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ○リソル生命の森のスポーツ関連施設 ○リソル生命の森の宿泊施設 ○公民館、武道館等の町営施設 ○町体育協会などによるスポーツ大会開催実績(町内一周駅伝、体育大会等)
事業主体	◆ まちづくり会社(リゾートソリューション、周辺事業者、町既存団体・NPOなどが連携して創設)
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 町民、移住者の健康増進・生きがい創出 ◇ 成果を実感できる場の創出による意欲の継続 ◇ 大会参加者、関係者、応援者の消費 ◇ 情報発信機会の増加による認知度向上
課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 実施主体の確立 ✓ 参加者の健康管理など医療施設との連携 ✓ 来場手段の確保(公共交通機関の充実)
期待される役割	<p>【町民】大会参加、運営ボランティア</p> <p>【移住者】大会参加、運営ボランティア</p> <p>【長柄町】協賛、運営支援、大会誘致</p> <p>【リゾートソリューション】開催場所、宿泊施設の提供</p> <p>【周辺自治体】大会参加、広域イベントの開催、運営協力</p> <p>【周辺事業者・NPO】協賛、運営ボランティア</p>

³ 全国的な高齢者スポーツ大会としては、厚生労働省等が主催する主に60歳以上を対象とした「全国健康福祉祭(愛称:ねんりんピック)」や、公益財団法人日本体育協会が主催する競技志向の高いシニアを対象とした「日本スポーツマスターズ」がある。開催自治体も主催者となるがともに千葉県での開催実績はない。

遊休農地を活用した市民農園⁴と地域交流

概要

長柄町と農家の連携により特定農地貸付け等の手法で農地を確保し、移住者が市民農園として利用する。

自然との親しみ、農家による技術指導や援農ボランティア等との交流機会の創出とともに、生産物を施設内で利用（買い取り制度）する事により、仕事としての生きがい創出につなげる。

図表 10 遊休農地の活用事業の手法案

活用可能な地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ○町内の遊休農地 ○ながらグリーンツーリズムの豊富な実績 ○生産物の消費の場（リソル生命の森、道の駅など） ○多様な町内の農業生産物
事業主体	◆ 運営推進法人が長柄町グリーンツーリズム推進協議会と連携
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自然に親しみたい移住者の希望の実現 ◇ 施設内での経済循環の発生（生産→買い取り→消費） ◇ 近隣遊休農地の解消 ◇ 農業と連携したイベントの実施（他世代交流、近隣住民との交流、季節的なイベントでの利用）
課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 農地の確保 ✓ 技術指導者など協力者の確保
期待される役割	<p>【町民】 農業者の技術指導、援農ボランティア</p> <p>【移住者】 市民農園の利用</p> <p>【長柄町】 農地の確保、技術指導の斡旋</p> <p>【運営推進法人】 市民農園の管理</p>

⁴ 市民農園：一般に都市住民や農地を持たない方がレクリエーション、農業体験、食育、健康づくり、リハビリテーション、自然とのふれあいといった目的などで、小面積の農地を利用して野菜や花などを栽培するための農園

前述の事例に加え、各種アンケート・ヒアリング調査、先進事例調査等に基づき、長柄町におけるセカンドキャリア支援プログラムの検討例を参考として示す。

分野	事業プラン	概要	取組例
就労	シニア人材バンク	高齢者の就業と周辺事業所の人材確保を支援するため、専門的な知識や技術等を有する高齢者と、そうした高齢者人材を求める企業とのマッチングを行う	富山県 静岡県 ほか
	シニア向け市場開発	食、生活関連、介護・福祉分野商品などに関心が高い移住者をモニターとして募集し、商品開発や品質改良につなげる。 (周辺事業者の高齢者向け市場の進出にも寄与)	
	起業・創業支援	起業に関する支援制度や支援機関の紹介 起業・創業に関する手続きのワンストップ化	福岡県 ほか
	共同店舗の運営	共同店舗での就労ボランティア、作品販売、食事提供などにより就労の場と地域交流を実現	ゆいま〜る 那須 シェア金沢 ほか
	ワークシェアリングシステムの導入	ICT技術を活用したワークシェアリングシステムを活用し、高齢者の就労希望と周辺企業の繁閑に応じた求人をマッチング	岩手県 八幡平市
	市民農園 シェア農園 遊休農地の活用	地元農業者の協力のもとシェア農園を展開。耕作放棄地の解消と新規就農を目指す。生産物は移住者の食事やレストラン等での使用、直売所の開設等により販路を確保	
	リソル生命の森での就労機会の創出 (共同事業の検討)	合宿等での来場者の活動補助、レストランへの食材供給、共同店舗の一般利用解放、フィルムコミッションへの取り組み、農業・昔遊び等体験プログラムの提供などにより移住者の就労機会を創出	
生涯学習	大学講義の受講 (カレッジリンク)	千葉大学のカレッジリンクプログラム、学生に対する相互講義	
	生涯大学校との連携	生涯大学校との連携強化による地域活動人材の育成	
	地域人材バンク	豊富な知識・経験を有する人材を登録し、住民の方に紹介。登録分野は「教育」、「文化・伝統」、「料理」、「芸術」、「農業」、「スポーツ」など	福井県 勝山市 ほか

	資格取得推進による人材育成	資格取得補助、関連講義の遠隔受講、周辺企業での研修などを通じた資格取得や知識向上 (保育、福祉、観光、園芸、重機、運輸など)	
	スポーツ施設の活用	マスターズ大会、ねんりんピックなどの中高年齢を対象としたスポーツ大会の誘致や新規開催の検討	
	目標志向型イベントの定期的な開催	上記スポーツ大会、共同店舗での販売、既に取り組んでいる文化イベントなど日頃の取り組みを発表、成果を実感できるイベントを定期的に開催し、意欲の継続や技能・能力の向上を図る	
社会参加・地域活動	既存組織との連携	社会福祉協議会、NPO団体、経済団体など既存の社会参加組織と連携し、社会参加機会と取組効果の拡大を図る	
	企業のCSR活動との連携	清掃、食育、職業体験といった周辺事業者のCSR活動とボランティア活動の連携	
	多世代交流の促進	千葉大学の学生、附属小中学校の校外学習、子ども園児童・学童保育のボランティアなど他世代交流の促進	
	地域交流の場創出	サ高住関連施設(温浴施設など)の地域住民への開放による地域交流の場を創出	
	地域課題解決型の社会参加	二次交通の充実など住民生活の課題を自らボランティアとして解決することで生活利便性向上と移住・定住促進につなげる (送迎事例:プチ送迎ボランティア、あいあい自動車)	長野県・松本市 三重県・菰野町
推進・実施体制	多様な担い手による事業連携	運営推進法人、行政、社会福祉協議会、NPO、千葉大学、事業者、町民などが多様な担い手によるプログラムの提供	茨城県阿見町
	プログラムのワンストップ提供	専門人材の登用によるコーディネーターを設置し、セカンドキャリア支援プログラムをワンストップで提供	
	情報発信の強化	移住・定住イベント、ツアーの実施、県との連携、ICTの活用、多様な主体によるSNSを活用した情報発信により認知度向上を図る	
	首都圏への近接性を活用した誘致活動	二地域居住の推進や、首都圏でのイベント、グリーンツーリズムを活用した都市農村交流など首都圏への近接性を活かした誘致活動を展開	
	庁内横断組織によるプログラム推進	主管部署の設置とともに、庁内横断的にプロジェクトリーダーを担い自身の業務としてプロジェクトを推進	山梨県都留市
	住民理解の促進	生涯活躍のまち構想の住民理解を促進し、地域交流機会の増加や産業振興につなげる	

VI. 基礎調査結果概要

1. 事業者アンケート調査

(1) 調査概要

1) 調査の目的

「長柄町生涯活躍のまち」の推進にあたり、移住者のセカンドキャリア構築に係る事業検討の基礎資料として、周辺の事業者・NPO団体等の方々を対象に、中高年齢層における雇用の現状、連携事業に関する取組み可能性などについて把握する。

2) 調査の対象

長柄町・茂原市・市原市・長南町の事業所および周辺NPO団体
事業所：1,862事業所、NPO：138団体

3) 調査方法

郵送配布・郵送による回収

4) 調査の時期

平成28年10月18日（火）～11月14日（月）

5) 調査票の回答状況

- ・ 設計標本数：2,000事業所
- ・ 有効回答数360事業所（有効回答率18.0%）

(2) 調査結果（概要）

1) 経営環境

① 直近3年間の業績変化

- ・ 直近3年間の業績変化は、「売上高」、「経常利益」、「取引先数・顧客数」は「増加した」が「減少した」を上回っており、業績変化としては「好転」している事業所の方が多くなっている。
- ・ 全体に比べ、長柄町立地企業の方が「売上」、「経常利益」、「取引先数・顧客数」において「減少した」の割合が多くなっており、周辺自治体に比べ厳しい経営環境となっている。

② 主要事業の将来展望

- ・ 今後予想される市場規模は、「現状維持」が45.4%で最も多く、「縮小（27.0%）」が「拡大（20.7%）」を上回っている。長柄町立地企業では、全体に比べ「縮小（36.0%）」の割合が高くなっている。
- ・ 事業規模の方向性では、「現状維持」が58.0%で最も多く、「拡大（23.4%）」が「縮小（7.7%）」、「廃業・撤退（7.4%）」を上回っている。

2) 雇用

① 年齢別の従業員数

- ・ 年齢別の従業員の構成比は、年齢が上がるにつれて、「正社員・役員」の割合が低下し、65歳以上の従業員では、「正社員・役員」の割合は38.9%と「パート・アルバイト(36.1%)」と同水準となっている。

② 雇用不足感

- ・ 部門別の雇用過不足感は、正社員における「生産管理部門(不足:37.8%)」、「技術開発部門(不足:46.0%)」などで不足感が強くなっている。
- ・ 業種別の雇用不足感D I(「不足」-「過剰」で算出)は、「医療・福祉」における「営業販売部門・正社員(71.4%)」、「技術開発部門・正社員(66.7%)」、「その他サービス」における「生産部門・正社員以外(54.2%)」などで不足感が強くなっている。

③ 雇用人数と今後の雇用人数

- ・ 直近5年間における雇用人数の増減は、「正社員」、「正社員以外」とともに「増えている」が「減っている」を上回っており、全体としての雇用人数が増加している事業所の方が多くなっている。業種別の雇用人数D I(「増えている」-「減っている」で算出)をみると、「正社員」、「正社員以外」とともに「医療・福祉業」が最も高くなっており、雇用増加傾向が強い業種となっている。
- ・ 今後の採用人数は、「正社員」、「正社員以外」とともに雇用人数を増加させる意向の事業所が多くなっている。業種別の今後の採用人数D I(「増やしていく」-「減らしていく」で算出)をみると「医療・福祉業」が最も高くなっている。「医療・福祉業」以外でも、「運輸業(正社員、正社員以外ともに50.0%)」、「その他サービス」における「正社員以外(50.0%)」などでも高くなっている。

④ 求める人材のスキル・年齢

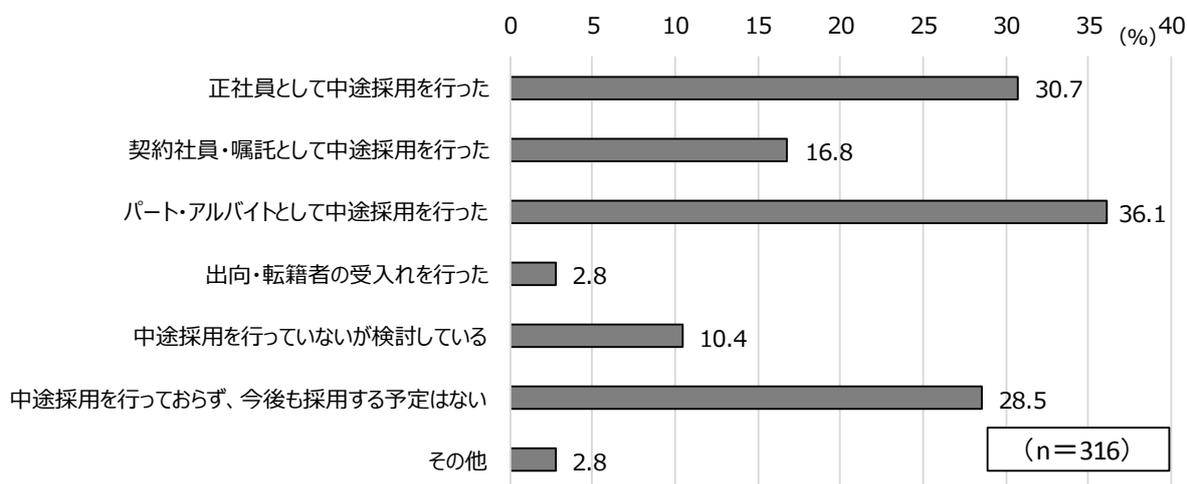
- ・ 求める人材のスキルは、「高い労働意欲」が60.0%と最も多くなっており、次いで、「顧客対応力(56.0%)」、「実務経験(55.4%)」、「協調性(54.9%)」の順となっている。
- ・ 業種別では、「高い労働力」における「製造業(79.2%)」、「運輸業(71.4%)」、「その他サービス(70.6%)」、「顧客対応力」における「卸売・小売(77.8%)」、「NPO団体(71.4%)」、「協調性」における「その他サービス(70.6%)」、「資格」における「医療・福祉(72.2%)」などが多くなっている。
- ・ 求める人材の年齢は、「30歳代」が52.8%で最も多いが、「60歳代」における「NPO団体(21.4%)」、「年齢は限定しない」における「医療・福祉(42.1%)」、「製造業(39.1%)」等も多くなっており、高年齢層でも一定の人材需要がみられている。

3) シニア人材の雇用

① 55歳以上の中途採用実績

- 55歳以上の中途採用実績は、「パート・アルバイトとして中途採用」が36.1%で最も多く、次いで「正社員として中途採用（30.7%）」となっている。一方、「中途採用を行っておらず、今後も採用する予定はない」も28.5%を占めている。

図表 11 55歳以上の中途採用実績



③ 55歳以上の中途採用を行わない理由

- 55歳以上の中途採用を行わない理由は、「現状の従業員数で対応できている」が48.4%で最も多くなっており、次いで、「若年者の雇用を優先したい（36.1%）」、「体力面、健康面での懸念がある（29.5%）」の順となっている。

④ シニア人材の雇用拡大に向けた支援策

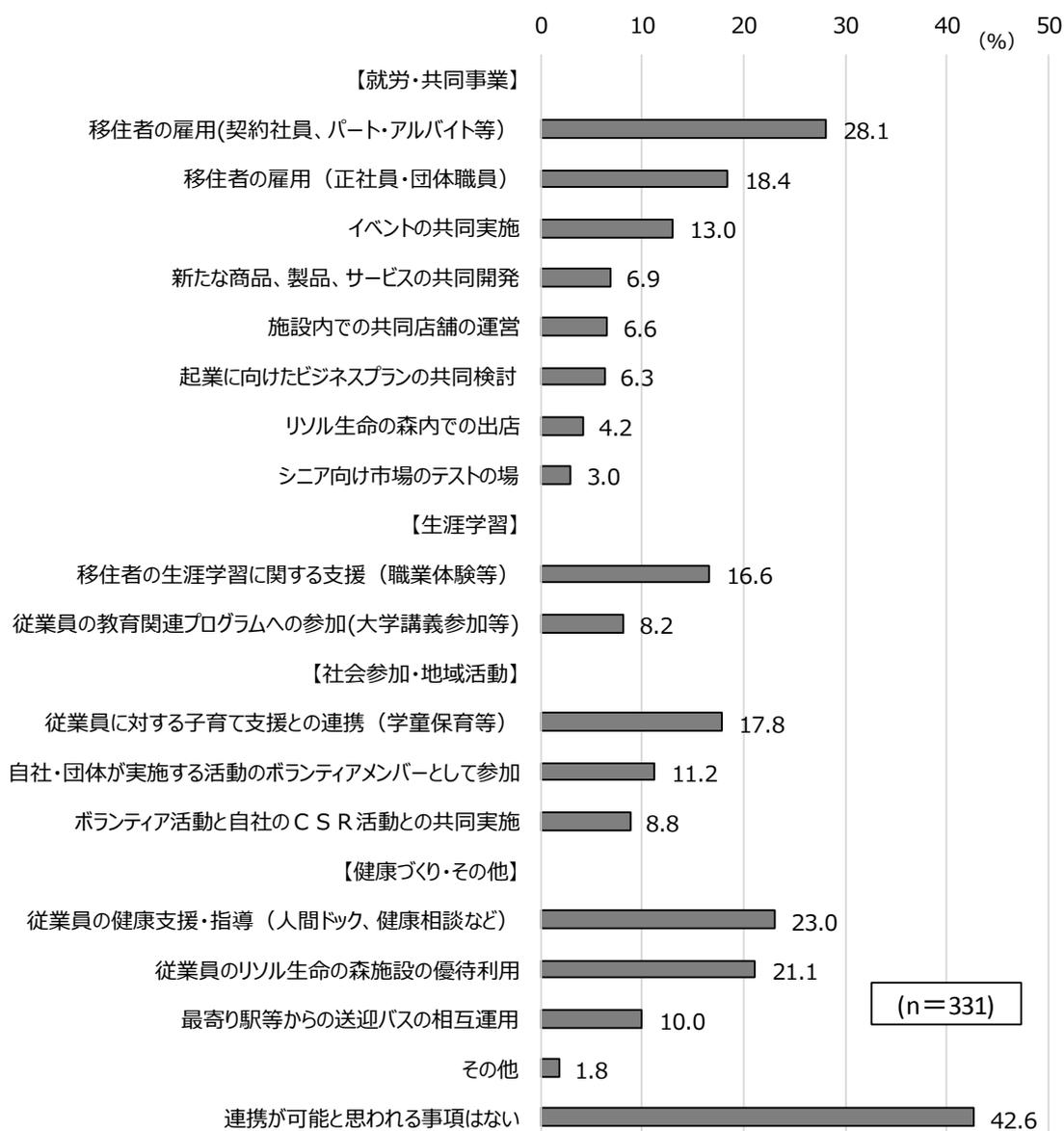
- シニア人材の雇用拡大に向けた支援策は、「高齢者雇用を促進した企業に対する助成制度」が58.7%で最も多くなっており、次いで、「雇用・採用を希望する地元企業・NPO・ボランティア団体等に対する情報提供（41.9%）」、「シニア人材と地元企業・NPO・ボランティア団体等のマッチング事業（27.6%）」の順となっている。
- 属性別では、「NPO団体」における「シニア人材と地元企業・NPO・ボランティア団体等のマッチング事業（68.0%）」「不動産、物品賃貸業」における「雇用・採用を希望する地元企業・NPO・ボランティア団体等に対する情報提供（66.7%）」などが多くなっている。

4) CCRC事業との連携

① 連携が可能と思われる事項

- ・ CCRC事業と連携が可能と思われる事項では、「移住者の雇用（契約社員、パート・アルバイト等）」が28.1%で最も多く、次いで、「従業員の健康支援・指導（23.0%）」、「従業員のリソル生命の森施設の優待利用（21.1%）」の順となっている。一方、「連携が可能と思われる事項はない」は42.6%と最も回答割合が高くなっている。

図表 12 CCRC事業と連携が可能と思われる事項



② 連携が困難な理由

- ・ 連携が困難な理由は、「自社内に対応できる人材がいない」が46.2%で最も多くなっており、次いで、「主要事業以外に取り組む余裕がない（43.9%）」、「リソル生命の森と自社・団体が物理的・時間的に遠い（20.5%）」の順となっている。

2. Webアンケート調査（都市住民）

(1) 調査概要

1) 調査の目的

「長柄町生涯活躍のまち」の推進にあたり、首都圏住民等に対し、将来の移住意向、希望するセカンドキャリアなどを調査し、移住者のニーズと地域資源とのギャップを把握する。

2) 調査の対象

移住に関心のある 50～74 歳の男女 1,500 人

① 千葉県：500 人

② 千葉県以外の首都圏住民（東京都・神奈川県・埼玉県）：1,000 人

3) 調査方法

調査会社のモニターに対する Web アンケート調査

4) 調査の時期

平成 28 年 11 月 18 日（金）～11 月 21 日（月）

(2) 調査結果（概要）

1) 地方移住

① 地方移住への興味

本調査では、移住への興味をスクリーニング調査とし、移住に興味がある方のみを調査対象とした。

本調査における「移住」とは、今より魅力的な生活・環境を求めて自ら積極的に居住地を移すことを言い、転勤・転職・進学等によりやむをえず居住地を移す場合は含まない。

- ・ 地方移住への興味は、「まだはっきりと移住したいと決めているわけではないが興味は持っている」が 66.8%で最も多く、次いで、「いつか移住したいと思っているがまだ具体的には検討はしていない（20.5%）」、「いつか移住したいと思って、具体的に移住先を検討している（12.7%）」となっている。
- ・ 「いつか移住したいと思って、具体的に移住先を検討している」では、「60～64 歳（17.7%）」、「自営業・自由業（17.4%）」、「金融資産 1 億円以上」の層で多くなっている。

② 移住先として考慮する地域

- ・ 移住先として考慮する地域は、「地方部（農村部・山間部・漁村部など都県に関わらず東京・大阪・名古屋の三大都市圏中心部から概ね 1 時間以上の地域）」が 38.3%で最も多くなっている。次いで、「その他の都市部（都内、政令指定都市、中核市以外）」が 29.6%となっている。
- ・ 「地方部」は、「男性（44.9%）」、「無職[年金生活者を含む]（43.3%）」などで多くなっている。一方、「女性」は 28.7%と「男性」と 16.2 ポイントと大きな開きがみられている。

③ 地方で暮らしてみたい理由

- ・ 地方で暮らしてみたい理由は、「自然に囲まれて暮らしたいから」が73.0%で突出して多くなっており、次いで、「健康的な生活がしたいから（44.1%）」、「生まれ故郷に戻りたいから（19.2%）」、「生活コストが下がるから（19.0%）」の順となっている。
- ・ 属性別では、「自然に囲まれて暮らしたいから」における「70～74歳（82.1%）」、「公務員・団体職員（90.0%）」、「魅力を感じている街があるから」における「公務員・団体職員（26.7%）」、「趣味を楽しみたいから」における「70～74歳（21.4%）」、「災害に強い地域で暮らしたいから」における「金融資産1億円以上（19.0%）」、「70～74歳（17.9%）」などが多くなっている。

2) セカンドキャリア

① セカンドキャリアとして行いたい事項

- ・ セカンドキャリアとして取り組みたい事項は、「健康づくり」が34.6%で最も多く、次いで、「趣味の充実（22.7%）」、「園芸（21.8%）」、「農業（16.8%）」の順となっている。
- ・ 「健康づくり」は「70～74歳（49.4%）」など年齢が高い程関心が高くなっている。「70～74歳」は、「健康づくり」以外でも「同居家族との時間の充実（23.4%）」、「スポーツ（22.1%）」、「子ども、孫との時間の充実（15.6%）」などが全体に比べ多くなっている。また、「公務員」における「就労[過去の就労経験がない分野]（18.7%）」、「行政施策への協力（12.0%）」も多くなっている。

② セカンドキャリアで活用したい経験・スキル・教養

- ・ 活用したい経験・スキル・教養では、「事務スキル（経理、パソコンなど）」が15.1%で最も多く、次いで、「対話力[営業、接客経験]（13.3%）」、「料理（11.9%）」、「園芸（11.3%）」の順となっている。一方で、「特にない」が36.9%と最も多い回答となっている。
- ・ 属性別では、「園芸」における「70～74歳（20.8%）」や「金融資産5,000万円以上1億円未満（20.0%）」、「対話力[営業、接客経験]（19.1%）」などが多くなっている。また、「特にない」では、「家事専業」が49.8%で最も多くなっている。

3) 長柄町の認知度

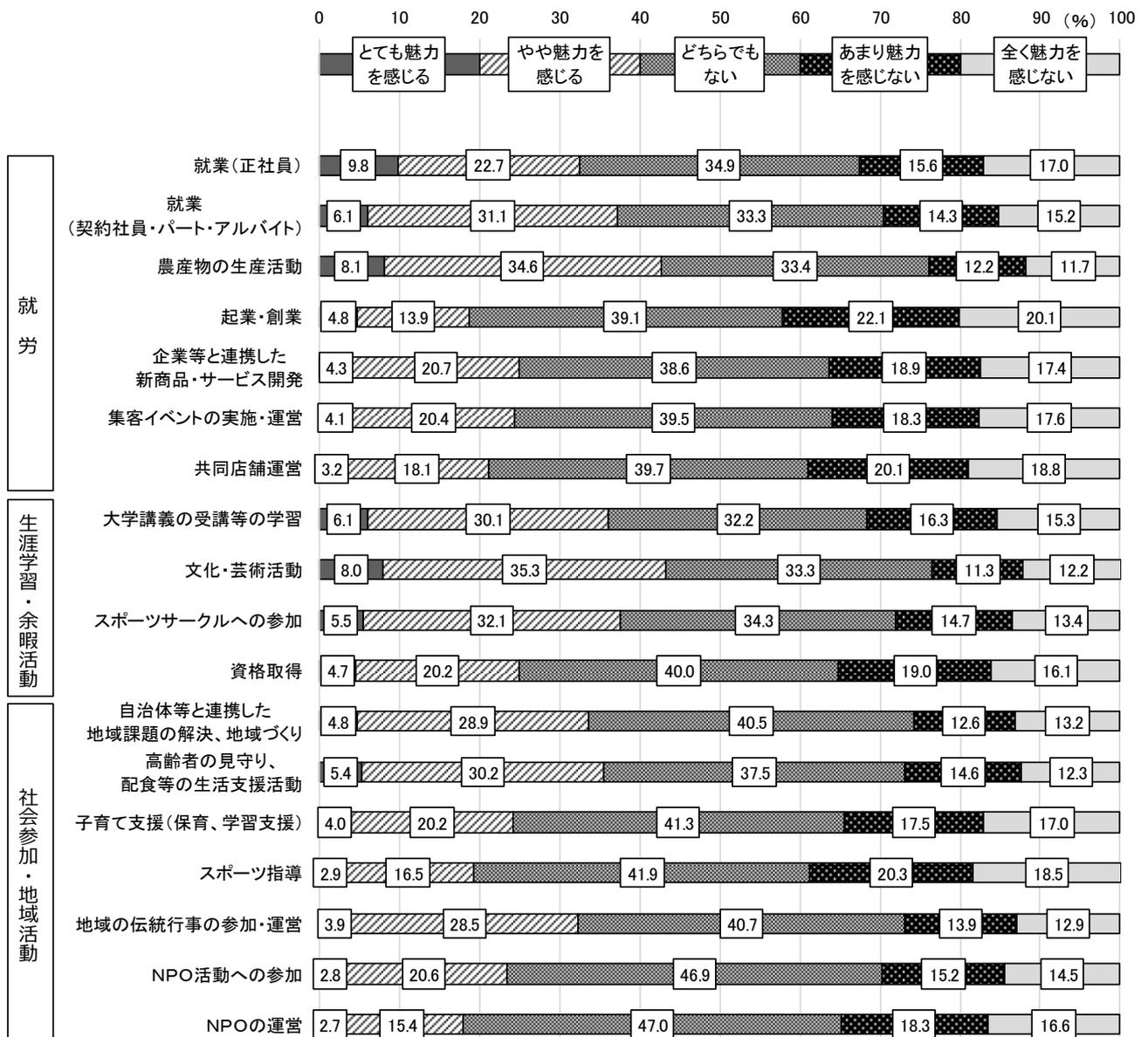
- ・ 長柄町の認知度では、「知らない（聞いたこともない）」が50.1%と半数を占めている。次いで、「名前は聞いたことがある（21.4%）」、「行ったことがあり知っている（17.9%）」、「行ったことはないが知っている（10.6%）」の順となっている。
- ・ 「行ったことがあり知っている」は、「千葉県（35.2%）」、「70～74歳（26.0%）」で高く、「知らない（聞いたこともない）」は「神奈川県（68.7%）」で最も多くなっている。

4) リソル生命の森での活動に関する興味

① 興味のある活動

- ・ リソル生命の森での活動に関する興味度【(「とても魅力を感じる」+「やや魅力を感じる」)-(「あまり魅力を感じない」+「全く魅力を感じない」)】では、「文化・芸術活動」が 19.8%で最も高く、次いで、「農産物の生産活動 (18.8%)」、「スポーツサークルへの参加 (9.5%)」、「高齢者の見守り、配食等の生活支援活動 (8.7%)」の順となっている。一方、「起業・創業 (▲23.5%)」、「スポーツ指導 (▲19.4%)」、「共同店舗運営 (▲17.6%)」などが低くなっている。

図表 13 興味のある活動分野



3. グループディスカッション

(1) 調査概要

調査目的	首都圏の移住希望者の方から、移住先の検討に係る忌憚のない意見・要望などを直接的に把握し、長柄町生涯活躍のまち構想のコンセプトづくりに反映させる				
実施方法	参加者5名によるグループディスカッション方式				
実施時期	平成29年1月22日（日） 13:00～15:00				
会場	東京都中央区日本橋 ウィズビジネスセンター会議室				
テーマ	① 移住に関する興味 ② 希望する移住先と重視する検討項目 ③ リソル生命の森への評価（他地域、施設との比較） ④ 興味のあるセカンドキャリアプログラム				
参加者	移住に関するWebアンケートを実施し、回答内容から選定した5名 ※「地方移住への興味」、「CCRCへの興味」、「保有金融資産」、「居住地」等を考慮				
		性別	年齢	居住地	職業
	1	男性	55歳	東京都	公務員
	2	女性	64歳	東京都	家事専業
	3	女性	66歳	東京都	パート・アルバイト・契約社員
	4	男性	62歳	東京都	無職
5	女性	60歳	神奈川県	家事専業	

(2) ディスカッション内容（要旨）

1) 移住に関する興味

<ul style="list-style-type: none"> 移住にあたっては、将来太平洋側で想定される大規模地震も考慮している。（50歳代、男性、東京都）
<ul style="list-style-type: none"> 完全に移住しなくても、東京で仕事などをやって、移住先ではのんびり過ごすという二地域居住の形も検討している。（60歳代、女性、東京都）
<ul style="list-style-type: none"> 都会の刺激も欲しいため二拠点居住が良いと考えている。（60歳代、男性、東京都）
<ul style="list-style-type: none"> 自治体のイベントや、移住に関するセンターなどを訪ねたことはないが、情報収集は自治体のホームページで移住に関する支援制度などをみている。気になる自治体をホームページで検索し、自治体の生活環境などを調べている。（50歳代、男性、東京都）
<ul style="list-style-type: none"> 移住に関する情報はテレビでみる。最近は移住関係の番組も多い。気になった地域はそれをホームページで調べている。（60歳代、女性、神奈川県）
<ul style="list-style-type: none"> 移住先の情報としては、長野県、山梨県、北海道、宮崎県など比較的遠方の情報が多く、千葉県の移住関連情報を見聞きした事はない。千葉県の各地域は、移住先としてあまり意識していなかったため、近場の移住先としての魅力をアピールする必要があるのではないかと。近場である千葉県は二地域居住にはピッタリではないかと。（60歳代、女性、東京都）

2) 希望する移住先と重視する検討項目

<ul style="list-style-type: none">・ 重視することは自分がやりたいことができるか。住まいが重要で再生が出来る古民家の情報などがあると良い。(60歳代、男性、東京都)
<ul style="list-style-type: none">・ 20年前位に話題となったスペインのコスタ・デル・ソルへの移住も良いと思っていたが今はさびれていると聞いている。そういった話を聞くと、移住に失敗して、引き揚げてくるのが怖い。(60歳代、女性、東京都)
<ul style="list-style-type: none">・ 自分たちが移住した際に、受け入れてくれるコミュニティがあるかどうかも大事。衣食住はなんとかなるが、人間関係は厳しい。失敗する懸念があるのはコミュニティの部分。(60歳代、女性、神奈川県)
<ul style="list-style-type: none">・ 個人的には、マンション居住では地方移住の意味が無い気がする。古民家もあこがれている。一人では広すぎて住めないため、気の置けない仲間と一緒に住んでみたい。・ 医療体制が重要。都会は何かあればすぐに病院いけるが、田舎で一人暮らしであると、何かあった時に怖いので、近くに総合病院があると良い。(60歳代、女性、東京都)
<ul style="list-style-type: none">・ 移住先で就労が可能かという点と、地域包括支援センター等の医療・介護の整備状況や福祉施策において、都会と遜色ないとまでは言わないが、大きな負担なくできるかという点が重要。・ 新しい住民を既存のコミュニティが受け入れてくれるかどうかも重要。特に高齢の両親を抱えていると周囲の住民に助けを求めらる必要もあるためコミュニティは重要。コミュニティを含めた実際の環境は、お試し移住などで確かめるのが良いのではないか。(50歳代、男性、東京都)
<ul style="list-style-type: none">・ C C R Cは、就労、趣味、介護、医療がそろっているため良い取組であると考えている。・ 心配点として、受入れ自治体の財政余力があるのかも大事。移住してから夕張市のように住民サービスを切り詰められたら困ってしまう。(50歳代、男性、東京都)

3) 長柄町、リソル生命の森への評価

<ul style="list-style-type: none">・ 長柄町は消滅可能性都市になっているのではないかと。自治体が破たんした場合に民間事業者や千葉大学が事業継続するといっても、基礎自治体の支援も重要であり、その点で不安がある。・ 介護保険料を始めとした費用が異なるため、東京で住むよりも、生活コストが高くなるのではないかと。実際生活するうえで、介護保険料のシミュレーションなども示して欲しい。良いところばかり見せるのではなく、個人別の将来の見通しを示して欲しい。・ C C R Cは元気な高齢者が移住するというイメージが多いが、脳梗塞などの疾患の場合、分単位の戦いなので、3次救急まで1時間かかるというのは不安がある。(50歳代、男性、東京都)
<ul style="list-style-type: none">・ 施設やコンセプトなどからみると、都市部の富裕層をターゲットにしていると思うが、長期滞在型のレジャー施設との差別化が分からない。サービス付高齢者住宅を整備し、将来に渡って入居できるという点についても希望的観測に思える。(60歳代、女性、東京都)
<ul style="list-style-type: none">・ サ高住も含めた入居費用がかなり高額になるのではないかと。元気なうちは色々なことを楽しみながら生活を送れそうだが、自由が利かなくなった際にどのようなサービスが受けられるかを具体的に示して欲しい。(60歳代、女性、東京都)

<ul style="list-style-type: none"> ・ リゾート施設にしか思えない。自身が考える地方移住としては、不便を覚悟して検討しているのでこのような施設は不要である。(60歳代、男性、東京都)
<ul style="list-style-type: none"> ・ リソル生命の森は、地元住民があまり利用していないと思われ、もともと町内で孤立している場所で、さらにそこへ籠ってしまうと、新しい移住者がなおさら孤立してしまうのではないか。 ・ 現状では別荘というイメージ。ずっと住んでしまうと、1年くらいで施設内の活動に飽きてしまうのではないか。 ・ 「リソル生命の森」の施設内で提供されるサービスだけでなく、長柄町でどのような生活が営まれているか、ということが知りたい。移住者はあくまで地域が好きで移住するので、施設をアピールするのではなく、長柄町をアピールする必要がある。(50歳代、男性、東京都)

4) 興味のあるセカンドキャリアプログラム

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の産業に合わせた就労先があると思うので、長柄町に來ればこういう就労ができるということ具体的に教えて欲しい。 ・ 長柄町の住民や移住者の日常生活を教えて欲しい。地域の魅力を打ち出した具体的なものを示す事が重要ではないか。(50歳代、男性、東京都)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住者が再びフルタイムで働くのは難しいと思われる。そういった方は、農業などの分野のパートタイムで就労した方が良いのではないか。 ・ 地方移住では、農業をやりたいという話が必ずでるが、農業は自然が相手なので24時間対応が必要で大変な作業量である。地域の農業でもうまくシニアを活用できるのではないか。(60歳代、男性、東京都)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の知っている人が教えてくれると、効率よく進むことは多い。地元の方は、移住者に生活に必要な事など教え、移住者は介護施設などでボランティア活動をするといったことをコーディネートする仕組みがあると良い。 ・ 最近はお〇〇マイスターなどで、個人が持つスキルを認定する制度がある。長柄町でも、人材バンクのような仕組みをつくり、住民がそれぞれ何を教えられるなどとPRすれば、移住者と町民が新たなコミュニティとして溶け合う機会が増えるのではないか。(60歳代、女性、神奈川県)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住を促進する自治体の住民が、本当に都市部の移住者に來て欲しいという意識がみえる事が必要。住民が付いてきていなくて、千葉大学、町、事業会社が勝手に作っているイメージがある。例えば、住民のアンケートで、これだけの住民の方が來てほしいと思っているという数字を具体的に示してくれると説得力がある。 ・ 長柄町のどの魅力が、都市部の移住者に刺さるかは分からないので、詳細に強み、弱みを洗い出すと良い。(50歳代、男性、東京都)

長柄町
セカンドキャリア支援プログラム

平成 2 9 年 2 月
長柄町 企画財政課